

**令和4年度**

**一般廃棄物処理実施計画**

**鶴岡市**

## 目次

第1	総 則	1 ページ
第2	ごみ排出量等の見込み	2 ページ
第3	一般廃棄物の分別区分等	3 ページ
第4	ごみ処理施設の概要及びごみ処理量等の見込み ...	6 ページ
第5	し尿等処理実施計画	9 ページ
第6	3R推進施策等	10 ページ
第7	施設整備計画	14 ページ

## 第1 総 則

- 1 鶴岡市一般廃棄物処理基本計画に掲げる目標の実現を目指して、発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の3Rの考え方に基づくごみ減量・資源化対策を推進する。

また、SDGs（※1）の理念を普及し、脱炭素社会の構築など、地球環境の保全に貢献することを目指す。

※1 「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、平成27年9月の国連サミットにおいて採択された令和12年（2030年）までの国際目標。17のゴール、169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」(leave no one behind) という誓いのもと、社会・環境・経済にかかる様々な課題に総合的に取り組んでいくもの。

(関連する主なSDGsのゴール)



- 2 計画の期間 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

- 3 計画の区域

(1) 鶴岡市の全域とする。

(2) 計画区域外の一般廃棄物の搬入及び処理については次のとおりとする。

- ① 計画区域外で発生した一般廃棄物については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号。以下「法」という。）、その他法令等で広域的処理が必要とされる一般廃棄物を除き、他市町村と事前に協議を行い、計画との調和が確保された場合に限り搬入を認める。
- ② 三川町と鶴岡市との間の一般廃棄物の処理に係る事務の委託に関する規約（平成19年三川町告示第21号及び平成19年鶴岡市告示第75号）に基づき、同町の一般廃棄物のうち、鶴岡市の一般廃棄物処理施設において処理が可能な廃棄物について、搬入を認め処理する。

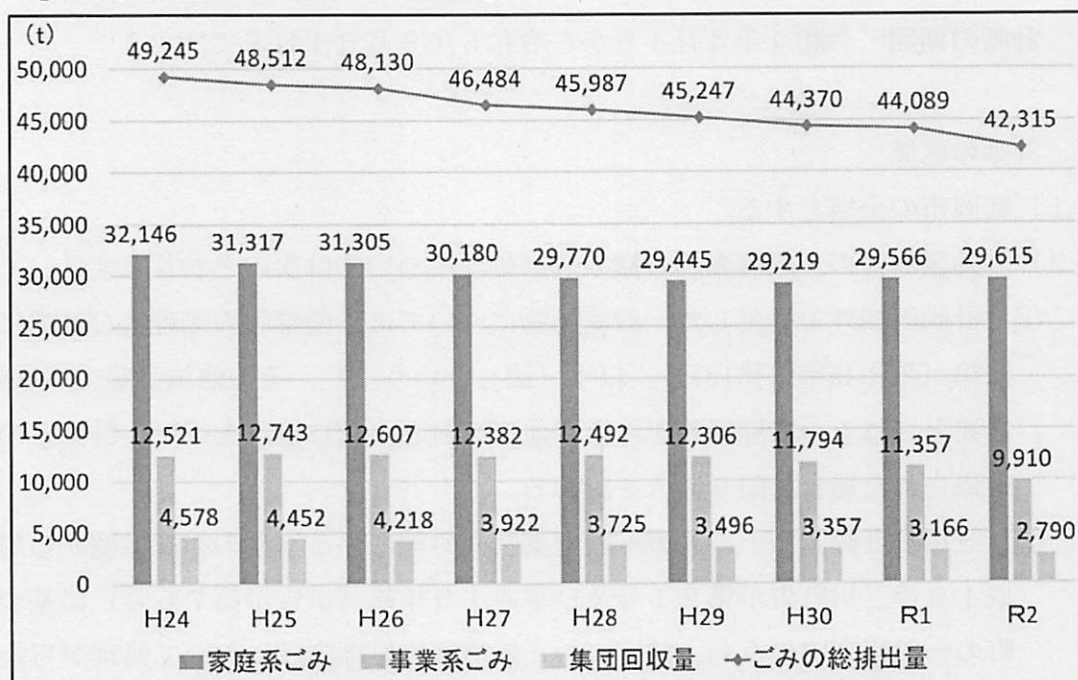
## 第2 ごみ排出量等の見込み

		令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績見込み)	令和4年度 (見込み)
排出量	①家庭系ごみ t/年	29,615	29,350	29,050
	②可燃ごみ t/年	26,466	26,250	26,000
	③不燃ごみ t/年	3,001	2,950	2,900
	④(うち資源ごみ) t/年	2,185	2,200	2,150
	⑤粗大ごみ t/年	148	150	150
	⑥事業系ごみ t/年	9,910	9,850	10,350
	⑦集団回収量・ 拠点回収量 t/年	2,790	2,800	2,800
⑧ごみの総排出量 t/年		42,315	42,000	42,200

○令和3年度実績見込みは、令和3年4月から12月までの実績に、令和3年1月から3月までの実績を加算し算出。

○令和4年度見込みは、令和2年度までの実績と、令和3年度実績見込みから推測される令和4年度の排出量を記載している。事業系ごみについては、コロナ禍で落ち込んだ事業活動の回復を見込んで算出。

### 【ごみ排出量等のこれまでの推移】



### 第3 一般廃棄物の分別区分等

#### 1 家庭から排出される一般廃棄物の分別区分等

廃棄物の種類	排出方法	収集方法	処理方法
もやすごみ	・指定ごみ袋(茶色)に入れ、ごみステーションに排出	・委託業者が収集(週2回)	・ごみ焼却施設で焼却 ・残渣は埋立処分
プラスチック製容器包装類	・指定ごみ袋(桃色)に入れ、ごみステーションに排出	・委託業者が収集(週1回)	・リサイクルプラザで圧縮梱包し、指定法人に出荷
ペットボトル	・指定ごみ袋(黄色)に入れ、ごみステーションに排出	・委託業者が収集(週1回)	・リサイクルプラザで圧縮し、指定法人・再資源化業者に出荷
びん	・指定ごみ袋(緑色)に入れ、ごみステーションに排出	・委託業者が収集(隔週)	・リサイクルプラザでカレット化し、指定法人に出荷
缶			・リサイクルプラザで圧縮し、再資源化業者に出荷
金属・その他	・指定ごみ袋(青色)に入れ、ごみステーションに排出	・委託業者が収集(隔週)	・リサイクルプラザで破碎・選別し、鉄・アルミは再資源化業者に出荷 ・残渣は焼却・埋立処分
蛍光灯・乾電池等	・購入時のケースや透明な袋に入れ、ごみステーションに排出	・委託業者が収集(月1回)	・リサイクルプラザで選別し、再資源化業者に出荷
粗大ごみ	・リサイクルプラザに持ち込む	・リサイクルプラザで受付(有料)	・リサイクルプラザで破碎・選別し、鉄・アルミは再資源化業者に出荷 ・残渣は焼却・埋立処分
	・許可業者に処理を依頼	—	・許可業者が資源化または処分
古紙類	・地域の集団資源回収に出す	—	・再資源化業者に出荷
	・ごみ焼却施設等に持ち込む	・拠点回収	・再資源化業者に出荷
	・資源回収業者に持ち込む	—	・再資源化業者に出荷
古着	・廃棄物対策課等に持ち込む	・拠点回収	・再資源化業者に出荷
使用済み小型家電	・廃棄物対策課等に持ち込む	・拠点回収	・再資源化業者に出荷
水銀製品	・廃棄物対策課・地域庁舎等に持ち込む	・拠点回収	・リサイクルプラザで選別し、再資源化業者に出荷

【市で処理できないごみ】

廃棄物の種類	品目例	処理方法
有害物質を含むもの・危険性のあるもの	農薬、薬品、バッテリー、ガスボンベ、火薬、廃油、塗料、医療廃棄物（感染性のあるもの、注射針など鋭利なもの）など	・販売店または取扱・許可業者に処理を依頼
処理に支障を及ぼすおそれがあるもの	スプリング入りマットレス、ピアノ、大型金庫、耐火金庫、農機具、焼却炉など	・販売店または取扱・許可業者に処理を依頼
建築解体に伴うもの	コンクリートブロック、煉瓦など	・許可業者に処理を依頼
家電リサイクル法対象品目	エアコン、冷蔵庫・冷凍庫、テレビ（ブラウン管・液晶・プラズマ）、洗濯機・衣類乾燥機	・販売店に引き取りを依頼 ・指定引取場所に持ち込む ・許可業者に処理を依頼
リサイクルルートが確立されているもの	消火器、自動車・自動車部品、バイクなど	・販売店または取扱・許可業者に処理を依頼

- (1) 家庭から排出されるごみは、決められた日時及び場所（ごみステーション）に出す定点収集方式により、市が委託した業者が「ごみ収集カレンダー」の日程で収集・運搬する。
- (2) 家庭から排出されるごみは、大気環境保全に配慮し、政令で定めるもの以外は、自己焼却処理行為を行わない。
- (3) 多量に発生したごみは、排出者自ら鶴岡市ごみ焼却施設または鶴岡市リサイクルプラザへ搬入、もしくは市が許可した一般廃棄物処理業者に処理を依頼する。
- (4) インクカートリッジや酒びんなど、製造業者・販売業者等による回収及び再資源化が行われている製品については、当該業者等による処理を利用する。
- (5) ごみ収集車やごみ処理施設での事故を防止するため、スプレー缶、カセットボンベ、ライター等を廃棄する際は、中身のガスを使い切り、穴を開けずに「金属・その他」で排出する。また、モバイルバッテリー、電子タバコ等は「蛍光管・乾電池等」で排出する。
- (6) 新型コロナウイルス等感染症の感染者等が使用したマスク、ティッシュ、紙コップ、食品トレイ等はビニール袋に入れて密閉し、「もやすごみ」で排出する。ペットボトルやびん、缶は、家庭内で保管し、陰性が確認されてから1週間以上過ぎた後に排出する。

## 2 事業活動に伴って排出される一般廃棄物の分別区分等

廃棄物の種類	排出方法	処理方法
可燃ごみ	・ごみ焼却施設に持ち込む	・ごみ焼却施設で焼却し、残渣は埋立処分
	・許可業者に処理を依頼	・ごみ焼却施設で焼却し、残渣は埋立処分 ・許可業者が資源化または処分
資源物 (古紙等)	・資源回収業者に処理を依頼	・再資源化業者が資源化

### 【市で処理できないごみ】

廃棄物の種類	品目例	処理方法
産業廃棄物	—	・産業廃棄物処理業者に処理を依頼

- (1) 事業系一般廃棄物は、排出者自らの責任において適正に処理することとし、市で収集運搬は行わない。
- (2) 事業系一般廃棄物の自己焼却処理を行う場合は、関係法令を遵守する。
- (3) 鶴岡市ごみ焼却施設に搬入する際は、ごみの種類、内容を容易に目視確認できる状態とし、ごみ袋を使用する場合は透明もしくは半透明のものを使用する。また、プラスチック類など、産業廃棄物に該当するものは搬入しない。

## 3 その他

- (1) 飼い主等が不明な猫等の小動物の死体は、原則として当該土地の所有者または管理者が収集・運搬し処理するものとし、鶴岡市ごみ焼却施設において焼却することができる。ただし、県道等の猫等の死体は、市に回収の権限移譲がなされていることから、市が収集・運搬し処理する。
- (2) 大規模な災害が発生した際には、鶴岡市災害廃棄物処理計画（平成31年1月策定）に則り、災害廃棄物等を適正、円滑かつ迅速に処理をする。
- (3) 一般廃棄物処理業は、法に則り市の許可により実施され、現在その許可業者は充足されており、原則として新規申請は受け付けない。



## 第4 ごみ処理施設の概要及びごみ処理量等の見込み

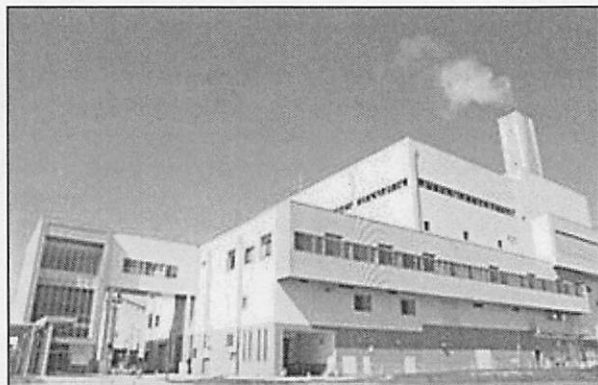
### 1 可燃ごみ処理施設

#### (1) 施設の概要

施設名	鶴岡市ごみ焼却施設
所在地	宝田三丁目13番6号
処理方式	全連続運転式焼却炉（ストーカ）
公称能力	160t/24h(80t/24h×2炉)

#### (2) 中間処理量の見込み（三川町分を含む）

廃棄物の種類	数量（t）
家庭系ごみ（もやすごみ）	27,500
事業系ごみ	11,900
合計	39,400



ごみ焼却施設

### 2 不燃ごみ処理施設

#### (1) 施設の概要

施設名	鶴岡市リサイクルプラザ
所在地	水沢字水京68番地の1
処理方式	資源回収方式 ・びん缶15t/日・金属その他10t/日・粗大ごみ8t/日
処理能力	減容圧縮梱包 ・プラスチック製容器包装11t/日・ペットボトル2t/日



(2) 中間処理量の見込み (三川町分を含む)

廃棄物の種類		数量 (t)
家庭系ごみ	プラスチック製容器包装類 (ペットボトル含む)	1,000
	びん・缶	1,200
	金属・その他	800
	蛍光管・乾電池等	50
	粗大ごみ	200
合 計		3,250

(3) 中間処理後の資源化量の見込み (三川町分を含む)

項目	資源化量 (t)
鉄	425
アルミ	230
カレット	645
ペットボトル	340
プラスチック製容器包装類	525
蛍光管/乾電池	50
その他	5
合 計	2,220



リサイクルプラザ

### 3 最終処分場

#### (1) 施設の概要

名 称	鶴岡市一般廃棄物最終処分場
所 在 地	大荒字荒沢前167番地2
埋立面積	18,400 m <sup>2</sup>
計画埋立容量	133,600 m <sup>3</sup>
埋立方法	管理型 サンドイッチ&セル方式
浸出水の処理方式	凝集沈殿処理、砂ろ過処理後 下水道放流

#### (2) 埋立量の見込み（三川町分を含む）

項目	埋立量 (m <sup>3</sup> )
焼却灰及び不燃残渣	5,300



鶴岡市一般廃棄物最終処分場

## 第5 し尿等処理実施計画

### 1 収集・運搬計画

#### (1) 収集・運搬区域の範囲

鶴岡市の全域

【参考】下水道等の接続率（令和3年3月31日現在）

	整備済区域内 戸数	接続 戸数	未接続 戸数	接続率(%)
・公共下水道事業	40,675	38,023	2,652	93.5
・集落排水事業	5,252	4,993	259	95.1
・浄化槽事業	426	424	2	99.5
計	46,353	43,440	2,913	(単独浄化槽設置戸数含む)

※鶴岡市の世帯数（令和3年3月31日現在） 49,182

※鶴岡市の世帯数－整備済区域内戸数 2,829

#### (2) 廃棄物の種類ごとの収集・運搬方法

廃棄物の種類	収集回数	方法
し尿	随時	許可業者への依頼
浄化槽汚泥等		

(3) し尿は、処理施設で適正な処理を行い、農地還元は行わない。

(4) 効率的かつ持続可能な処理体制を構築するため、し尿収集運搬業務の見直しを検討する。

### 2 中間処理計画

#### (1) 処理施設の概要

施設名	鶴岡市し尿処理施設
所在地	宝田三丁目13番6号
処理能力	152kℓ/日（し尿63kℓ/日・浄化槽汚泥89kℓ/日）
処理方式	1次・2次処理 標準脱窒素処理方式
放流水	BOD 10mg/ℓ以下
	SS 10mg/ℓ以下
	大腸菌群数 3,000個/ml以下

(2) 中間処理量の見込み（三川町分を含む）

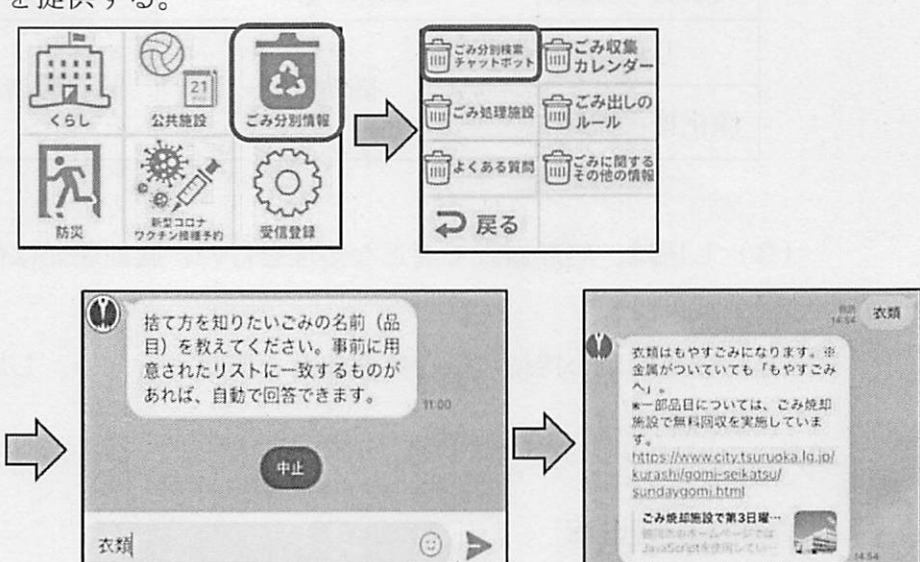
廃棄物の種類	数量（kℓ）	処理施設
し尿	2,350	鶴岡市し尿処理施設
浄化槽汚泥等	21,900	

3 最終処分計画

中間処理施設から排出される汚泥等を鶴岡市ごみ焼却施設で焼却した後、鶴岡市一般廃棄物最終処分場に埋立する。

第6 3R推進施策等

1 環境学習の推進

課題・目的	取組内容
<p>多様な媒体による効果的な情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報誌やエコ通信、ホームページ、SNS、YouTube など、様々なメディアによる情報発信を積極的に行う。</li> <li>・ 市公式 LINE を活用して、ごみ収集日通知機能やごみ分別検索機能などを提供する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>市公式 LINE の画面</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ごみの分け方・出し方ガイドブック」を改定し全戸配布する。</li> <li>・ ごみ収集カレンダーを全戸配布する。</li> <li>・ ごみの分別・排出方法について、外国語でも情報発信を行う。</li> <li>・ 市のごみ減量目標や排出量の実績などを数値化して、取組の成果や改善点、課題などを情報発信する。</li> </ul>



ごみ処理施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校や町内会等の団体の施設見学を受け入れ、資源循環型社会の構築に向けた啓蒙・啓発を図る。</li> <li>・ 施設見学会や各種リサイクル教室を開催する。</li> <li>・ リサイクルプラザの古本銀行(※2)をPRする。  <small>※2 リサイクルプラザにおいて、市民が持ち込んだ古本を、必要な人に貸し出すもの。</small></li> <li>・ リサイクルプラザに持ち込まれた粗大ごみのうち、再生可能なものは極力再生し、場内での展示や市民への提供などに活用する。</li> <li>・ ごみ焼却施設の愛称を募集する。</li> </ul>
学童期からの環境教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校単位での施設見学等の校外学習など、様々な機会を捉えて子どもたちへの啓蒙、特にリデュース(発生抑制)について力を入れる。</li> </ul>
市民と協働での環境学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内会等や各市民団体においてごみ分別出前講座を実施し、ごみ減量の必要性やごみの分け方・出し方の理解と分別徹底を推進する。</li> </ul>
廃棄物減量等推進員との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会や市職員との連絡・相談などを通じて、鶴岡市廃棄物減量等推進員の意識を高め地域活動推進を図る。</li> <li>・ 町内会等の効果的な取組事例などについて情報共有する。</li> </ul>
催事等での取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「環境フェア」等環境イベントを開催し、3Rについての啓発やフリーマーケット等に取り組む。</li> <li>・ 地域イベント等でのごみ減量への協力・参加を呼びかける。</li> </ul>

## 2 ごみの減量と資源化の推進

課題・目的	取組内容
家庭への啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡易包装商品の購入など、「ごみになるものを買わない、増やさない」という気運を醸成する。</li> <li>・ 生ごみの水切り徹底、特に夏の期間には極力水分を減らして排出することを呼びかける。</li> <li>・ 食品ロス削減のため、食材の適量購入、使いきり、食べきりなどを呼びかける。</li> <li>・ フードバンク・フードドライブ活動(※3)への協力を呼びかける。  <small>※3 各家庭で食べきれない食品などを引取り、福祉施設等へ無料で提供する社会福祉活動。</small></li> <li>・ レジ袋やスプーンを受け取らないようにするなど、ワンウェイ(使い捨て)プラスチックの利用削減を呼びかける。</li> </ul>
もやすごみの組成分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみ減量のターゲットを絞り込むため、家庭から排出されたもやすごみの内訳調査を実施する。</li> </ul>

<p>家庭系ごみ 処理の有料化 の調査・研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理に対するコスト意識の醸成や、ごみ処理負担の軽減を図るため、ごみ収集体制のあり方やごみ処理有料化について調査・研究する。</li> </ul>
<p>事業者への 啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の理解と協力を得ながら、簡易包装の実施など、ごみの発生量の少ない事業活動について啓発する。</li> <li>・市内の飲食店等の協力を得ながら、食品ロス削減ポスターの掲示など、外食時の「食べきり運動」を呼びかける広報活動を行う。</li> <li>・食品関連事業者等から排出される食品廃棄物の発生抑制と減量化について啓発する。</li> </ul>
<p>施設搬入ごみ の手数料の 見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理施設に搬入されるごみの処理手数料について、適正な費用負担のための見直しを検討する。</li> </ul>
<p>率先した行政 の取組の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡市所有・管理施設から排出されるごみの減量化を図る。</li> </ul>
<p>ごみの資源化 の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ焼却施設等において、古着・古紙・小型家電・水銀製品等の無料回収を実施する。</li> </ul> <div data-bbox="544 1055 1066 1447" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="555 1462 788 1491">古着の無料回収の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者等と連携し、ペットボトル、食品トレイ、紙パック等の店頭回収を推進する。</li> <li>・プラスチック製容器包装類、古紙類、びん類等の家庭系ごみの分別を徹底し、資源としての排出を推進する。事業系ごみについても、分別収集の徹底と資源化を促進する。</li> <li>・町内会等の協力を得て、ごみステーションでの早朝立哨指導をより多く実施し、ごみの分け方・出し方の理解と分別徹底を推進する。</li> </ul>
<p>プラスチック ごみの一括 回収の調査・ 研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もやすごみに含まれるプラスチックごみ量の試算や先進事例の調査、課題の整理など調査・研究を進める。</li> </ul>



<p>集団資源回収運動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が行う集団資源回収運動等への報奨金の支給など、支援を継続するとともに、優良事例を情報共有する。また、必要に応じて対象品目・報奨金の見直しを検討するなど、回収運動をさらに推進する。</li> <li>・特に雑がみ回収の拡大を周知し推進する。</li> </ul>
--------------------	--

### 3 適正かつ安定的、効率的なごみ処理の推進

課題・目的	取組内容
<p>ごみステーションの維持管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物減量等推進員と協力して町内会等との連携を進め、適正なごみステーションの設置及び維持管理を推進する。</li> </ul>
<p>適正排出の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみステーションへの事業系ごみの排出や、産業廃棄物の市施設への搬入などの不適正行為について、指導を強化する。</li> <li>・違法な不用品回収業者を利用しないよう啓発する。</li> <li>・収集運搬許可業者を通じて、ごみの適正排出について事業所に啓発を実施する。</li> </ul>
<p>高齢化等への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯等のごみ出し困難者については、地域の自主的活動と歩調を合わせながら対応していくとともに、高齢者等のごみ出し支援について研究・検討を進める。</li> </ul>
<p>地域循環共生圏<sup>(※4)</sup>の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの焼却によって発生する熱を利用して発電を行い、施設内で自家消費するほか、余剰電力を売電し、市内の小中学校や公共施設などに供給する「電力の地産地消」に取り組む。</li> </ul>
<p>環境保全の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体等と連携し、不法投棄防止に向けた啓発活動やパトロールを実施する。</li> <li>・ごみステーションにおけるごみの散乱防止の啓発を行う。</li> <li>・海岸部だけでなく陸域部でもクリーン作戦を実施するとともに、マイクロプラスチック<sup>(※5)</sup>の現状などの情報発信を行うことで、海岸漂着ごみ対策を推進する。</li> </ul>
<p>新型コロナウイルス感染症への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症まん延時においても、家庭系ごみの収集運搬業務を継続できるよう、委託業者等と連携し補完体制を構築するとともに、委託業者等に事業継続計画（BCP）の更新を促す。</li> </ul>

※4 平成30年4月に閣議決定された第五次環境基本計画で提唱された考え方。各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方。

※5 プラスチックごみが波や紫外線の影響で小さくなることや、合成繊維の衣料の洗濯などによって発生する5mm以下の微細なプラスチック。

## 第7 施設整備計画

### 1 ごみ焼却施設

旧ごみ焼却施設施設の解体を行う。

### 2 最終処分場

付帯施設の建設と、排水管整備関連工事を行うとともに、埋立満了となった岡山最終処分場の廃止に向けて閉鎖工事等を行う。

# 【一般廃棄物処理基本計画(改定版)の概要について】 計画の基本的事項

## (1) 計画改定の背景と目的

### ○全国的な動向

- H30.6 第四次循環型社会形成推進基本計画の策定
- R1.5 プラスチック資源循環戦略の策定
- R1.7 食品リサイクル法に基づく新基本方針の策定
- R1.10 食品ロス削減推進法の施行
- R2.3 食品ロス削減推進法に基づく基本方針の策定
- R2.7 レジ袋の有料化義務化
- 新型コロナウイルス感染症の流行

### ○本市の動き

- R2.7 SDGs未来都市に選定
- R3.4 新ごみ焼却施設稼働予定
- R3.10 新最終処分場稼働予定

↓

**計画期間前期の取組について検証するとともに、現状や課題を整理し、近年の廃棄物処理を取り巻く情勢を反映させるために見直しを行う。**

## (2) 計画の期間

- H28～R7(10年間)。中間年度:R2、目標年度:R7。
- 社会情勢の変化や国等の制度変更があれば計画を見直す。

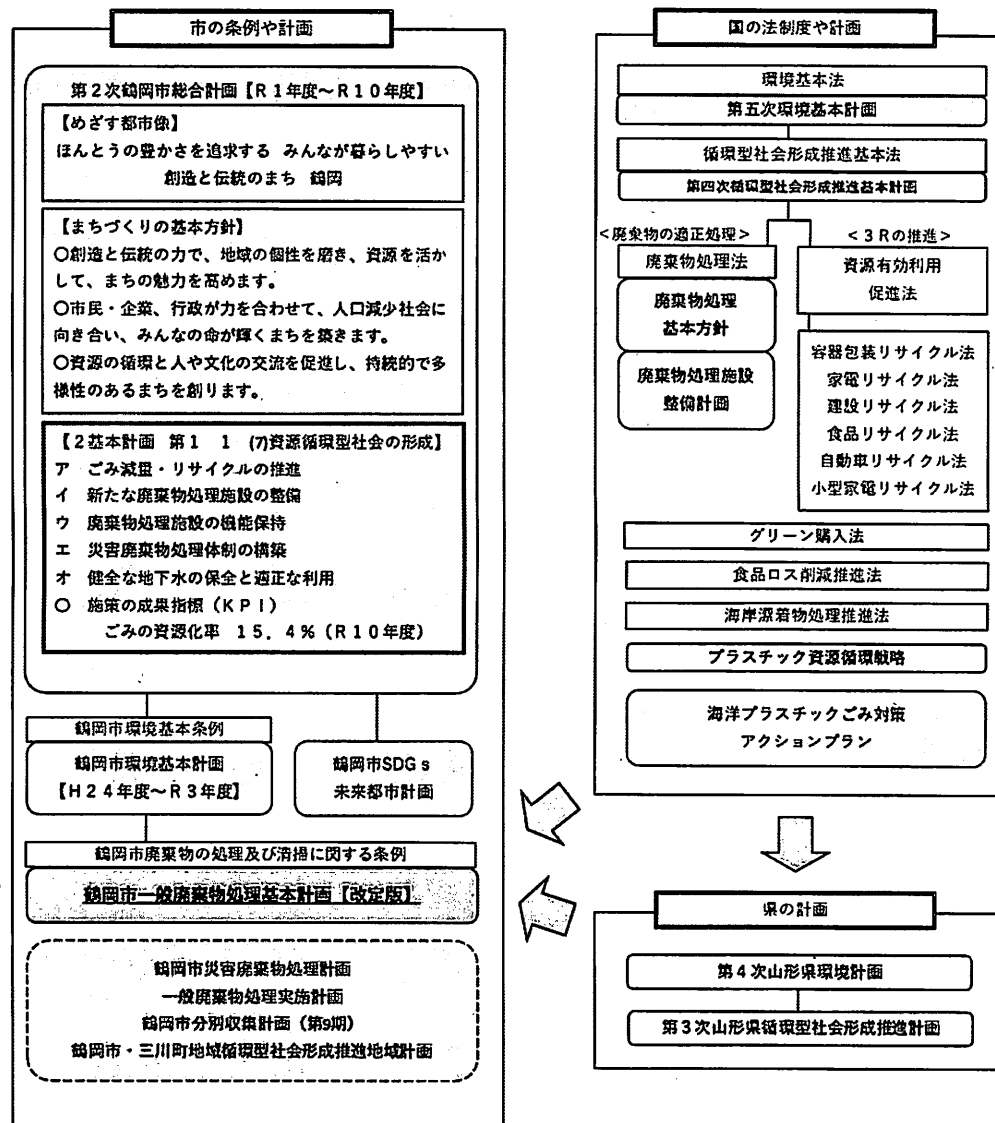
## (3) 計画の対象

- 循環型社会形成推進基本法で定める一般廃棄物

## (4) 計画の位置付け

- 「第2次鶴岡市総合計画」及び「鶴岡市環境基本計画」を上位計画とし、国・県・市の関連計画を踏まえる。

### 【計画の位置付け】

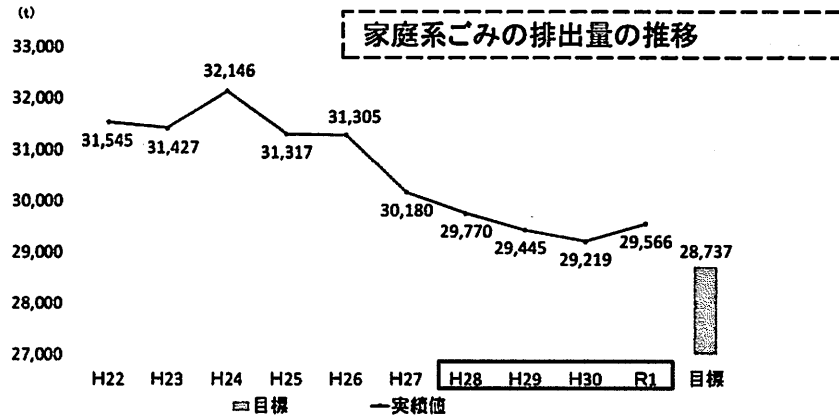


# 計画における目標値と前期の実績値①

## (1) 家庭系ごみの排出量

R1実績: 29,566t、R7目標: 28,737t

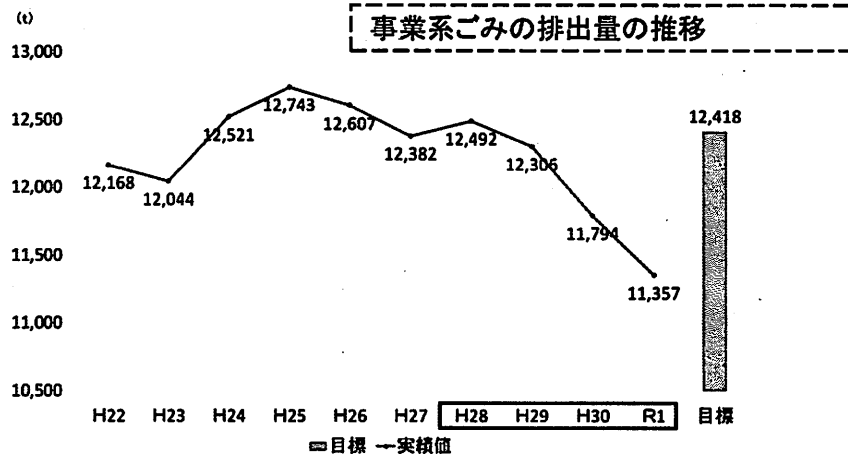
- 人口減少の影響もありH24～30まで減少。  
(R1の増加は山形県沖地震の影響と思われる)
- 約9割が可燃ごみ。



## (2) 事業系ごみの排出量

R1実績: 11,357t、R7目標: 12,418t

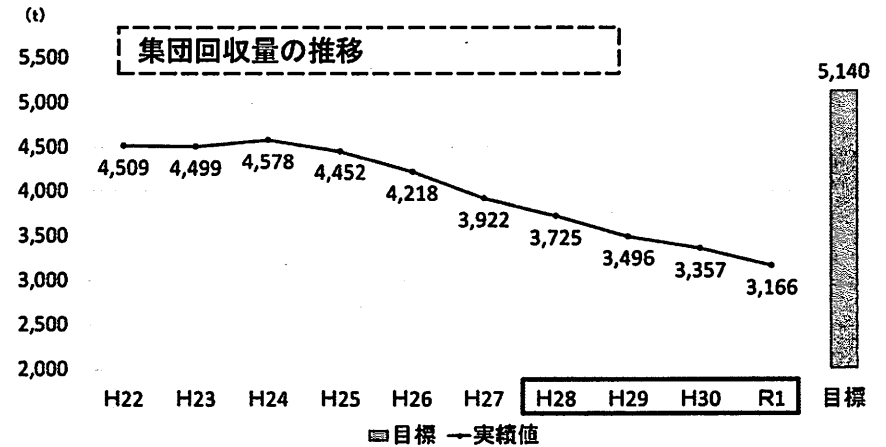
- 近年減少傾向。



## (3) 集団回収量

R1実績: 3,166t、R7目標: 5,140t

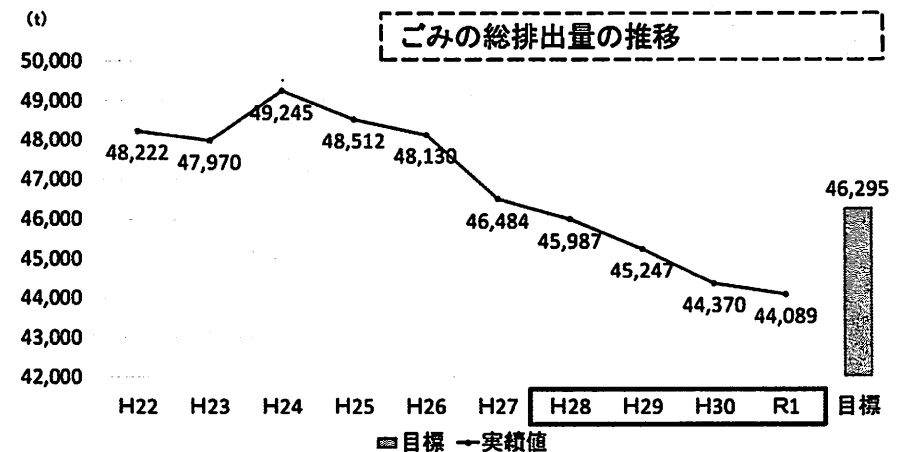
- H24以降減少傾向。
- 人口減少・少子化・ペーパーレス化などによる古紙類の減少や、リサイクルルートが多様化などが要因。



## (4) ごみの総排出量

R1実績: 44,089t、R7目標: 46,295t

- H24以降減少傾向。



## 計画における目標値と前期の実績値②

### (5) 1人1日当たりのごみの排出量

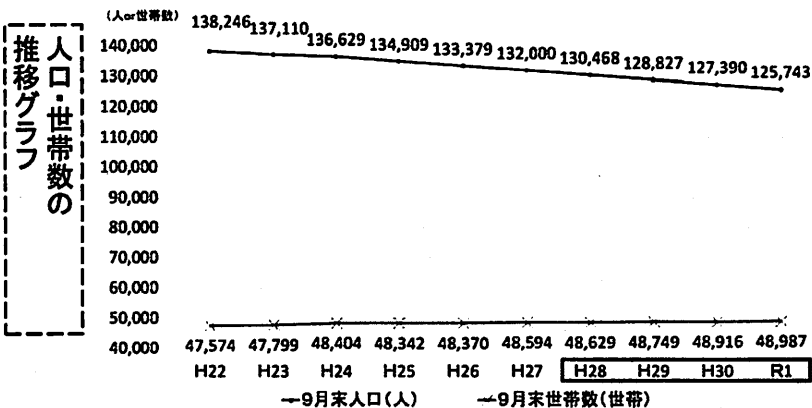
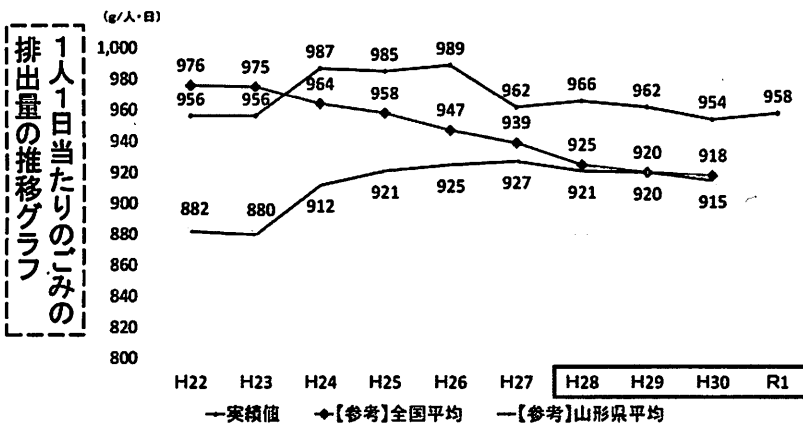
R1実績: 958g  
R7目標: 削減に努める

- H27～横ばい傾向。
- 人口減少が進む一方で、世帯数は増加していることから、世帯あたりで一定量の固定的なごみが発生することなどが要因と考えられる。
- 平成30年度の全国平均は918g、県平均は915gと本市と大きな差。

※1人1日当たりのごみの排出量

= 総排出量 ÷ 当該年度人口 ÷ 年間日数

9月末人口で算出



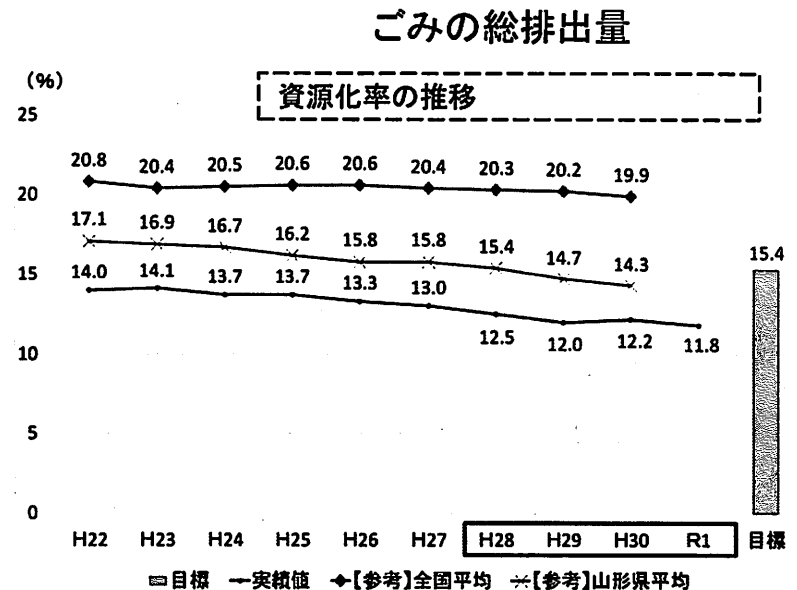
### (6) 資源化率

R1実績: 11.8%、R7目標: 15.4%

- 近年減少傾向。
- 平成30年度の全国平均19.9%、県平均14.3%を下回る。
- ごみの排出量や資源ごみの量、集団回収量の数値に大きく左右される指標。  
→可燃ごみの量が減少すれば相対的に上昇。  
資源ごみの量が減少すれば下降。
- 1人1日当たりのごみの排出量の減少が進んでいないことや、容器の軽量化等による資源ごみ重量の減少、集団回収量の減少、店頭回収等のリサイクルルートが多様化などにより下降。

※資源化率 =

(リサイクルプラザにおける資源化量 + 集団回収量)



## ごみ処理の課題

### (1) ごみ排出量の削減

- 家庭系ごみ・事業系ごみの総量は減少しているが、1人1日当たりのごみの排出量は横ばい傾向で、国・県の平均値とも大きな差があることから、更なるごみの減量が必要。
- 紙・布類及びワンウェイプラスチックの排出量の削減や、食品ロスの削減、生ごみの水切り徹底などが必要。

### (2) ごみの資源化の推進

- 資源化可能なものについて、分別の徹底や集団資源回収・店頭回収での排出が必要。
- 資源回収の維持・増加に向け、資源回収方法・品目の見直しや拠点回収の強化、報奨金の見直し、回収団体の掘り起こしなどが必要。

### (3) 食品ロスの削減

- 国民1人1日当たりおむすび1個分の食品ロスが発生。
- 国は、2030年度までに2000年度比で食品ロスを半減するという目標を設定。
- さらに効果的な啓発活動や、食品ロスの実態調査が必要。

### (4) プラスチックごみの削減

- 国は、2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制といった中間目標点を設定。
- 本市では、プラスチック製容器包装類とペットボトルは資源化、プラスチック製品やストローなどは焼却(エネルギー回収)。
- ワンウェイプラスチックの排出削減に向けた更なる啓発が必要。

### (5) 時代にあった分別、排出、収集、運搬等の検討

- 高齢者等へのごみ出し支援などの検討が必要。

### (6) 処理・処分機能の維持及び地域循環共生圏の構築

- 電力の地産地消の取組などが必要。

### (7) ごみの減量・資源化についての情報発信の強化

- 市広報やエコ通信での情報発信を継続するとともに、ホームページやソーシャルメディア、ごみ分別アプリ等を活用した情報発信の強化が必要。
- 減量目標や排出実績などを数値化して、取組の成果や改善点、課題などを可視化したり、取組の方法についてより具体的にわかりやすい情報発信が必要。

### (8) 廃棄物減量等推進員との連携の強化

- 効果的な取組事例の情報共有や、配置人数の検証が必要。

### (9) 地域の環境美化・保全の推進

- 不法投棄防止・クリーン作戦などのさらなる推進が必要。

### (10) 海岸漂着ごみ対策の推進

- プラスチックごみの削減、ごみの散乱・流出防止、クリーン作戦等による環境美化・保全運動の推進が必要。

### (11) 安定的な廃棄物処理体制の確保

- 災害発生時や感染症の流行時においても、廃棄物処理の安定的・継続的な実施が必要。



## 基本計画の目標

### 【基本目標】

一人ひとりの心をつないでつくる循環型社会 ～みんなで進める3R～

### 【基本方針】

基本方針1 環境学習の推進 ～ごみに関心を持ち理解を深めます～

基本方針2 ごみの減量と資源化の推進 ～ごみの量を減らします～

基本方針3 適正かつ安定的、効率的なごみ処理の推進 ～適正かつ安定的、効率的なごみ処理をします～

SDGsの理念を普及し、脱炭素社会の構築など、地球環境の保全に貢献することを目指す。



### 【数値目標】

以下のとおり目標を変更・整理する。  
目標値から外す項目も、参考指標として実績を把握していく。

	当初計画	中間目標 (R2)	変更前目標値 (R7)	実績値 (R1)	改定計画	変更後目標値 (R7)
(1)1人1日当たりの家庭系ごみの排出量(資源ごみを除く)	—	—	—	596g	目標	550g
(2)事業系ごみの排出量	目標	12,418t	12,418t	11,357t	目標	10,200t
(3)集団回収量	目標	5,140t	5,140t	3,166t	目標	3,200t
(4)資源化率	目標	15.3%	15.4%	11.8%	目標	13.2%
家庭系ごみの排出量	目標	30,072t	28,737t	29,566t	—	—
ごみの総排出量	目標	47,630t	46,295t	44,089t	—	—
1人1日当たりのごみの排出量	目標	削減に努力	削減に努力	958g	—	—
リサイクルプラザの施設資源化率	目標	—	70.0%	64.2%	—	—

### (1)1人1日当たりの家庭系ごみの排出量(資源ごみを除く)

- (家庭系ごみの排出量－資源ごみの量)  
÷当該年度人口÷年間日数
- 焼却または埋立されるごみの量を確認できる。
- ごみの減量や資源物の分別を進め、**約50g(≒生卵1個)の減量**に取り組む。

### (2)事業系ごみの排出量

- さらに**約10%の減量**に取り組む。

### (3)集団回収量

- もやすごみに混入している古紙類の資源回収を推進し、**回収量を維持**する。

### (4)資源化率

- ごみの減量に努めることで**相対的に資源化率を高め**、(3)により集団回収量の増加にも努める。

# 計画推進に向けた施策

## 基本目標

一人ひとりの心をつないでつくる循環型社会  
 ～みんなで進める3R～

## 基本方針

### 基本方針1

環境学習の推進  
 ～ごみに関心を持ち  
 理解を深めます～

### 基本方針2

ごみの減量と資源化の  
 推進  
 ～ごみの量を減らし  
 ます～

### 基本方針3

適正かつ安定的、効率的な  
 ごみ処理の推進  
 ～適正かつ安定的、  
 効率的なごみ処理を  
 します～

## 主な施策

### (1)情報の提供

・それぞれの特性を活かした多様な媒体での情報発信  
 ・ごみ分別アプリの導入・効果的な情報発信 etc

### (2)環境教育・環境学習の推進

・リサイクルプラザやごみ焼却施設での環境学習  
 ・ごみ分別出前講座・廃棄物減量等推進員との連携 etc

### (1)家庭系ごみ減量の推進

・各種啓発・食品ロス削減・ワンウェイプラスチック削減  
 ・アイデアの募集・家庭系ごみ処理の有料化の検討 etc

### (2)事業系ごみ減量の推進

・各種啓発・食品ロス削減・ワンウェイプラスチック削減  
 ・「もったいない山形協力店」などと連携した情報発信  
 ・施設搬入ごみの手数料見直し・率先した行政の取組etc

### (3)ごみ資源化の推進

・店頭回収推進・小型家電の回収・早朝立哨指導  
 ・プラ製容器包装類・古紙類・びんの分別推進 etc

### (4)集団資源回収運動の推進

・支援の継続・拠点回収の拡充・雑がみ回収の強化etc

### (1)適正な収集・運搬等の推進

・適正排出の推進・高齢者等のごみ出し支援の検討 etc

### (2)適正な処理・処分の機能確保 及びエネルギー回収の推進

・ごみの適正な処理処分・電力の地産地消の取組 etc

### (3)処理困難物等の適正処理

・特別管理廃棄物の適正な処理の推進  
 ・市で取り扱わないごみの適正な処理の推進 etc

### (4)廃棄物対策事業コストの低減

・効果的・効率的な業務運営 etc

### (5)不法投棄対策・散在性ごみ対 策の推進

・クリーン作戦の支援・不法投棄対策 etc

### (6)海岸漂着ごみ対策の推進

・ごみステーションのごみ散乱防止・クリーン作戦  
 ・ワンウェイプラスチックの排出抑制等 etc

### (7)安定的な廃棄物処理体制の 確保

・災害発生時・感染症流行時における廃棄物処理  
 体制の確保 etc

## 【数値目標】

(1)1人1日当たりの家庭系ごみの排出  
 量(資源ごみを除く)

596g(R1)→550g(R7) ※卵1個分

(2)事業系ごみの排出量

11,357t(R1)→10,200t(R7)

(3)集団回収量

3,166t(R1)→3,200t(R7)

(4)資源化率 11.8%(R1)→13.2%(R7)